

平成27年度 南アルプス市立白根御勅使中学校 前期学校関係者評価書

1 全体評価

職員による自己評価では、設定した34項目のうち33項目でA判定（おおむね良好）、1項目でB判定（工夫改善の余地がある）、C（工夫・改善が必要である）とD（根本的に工夫・改善を図る必要がある）は無し、となっている。このことから全体的には良好な学校教育が行われていると言える。

昨年度から評価項目をいくつか改訂していることから単純に比較はできないが、昨年度よりもB判定の数が減少したうえ、変更しなかった項目どうしを比較しても、その平均数値が向上しており、全体的に改善が図られていると考えられる。

唯一B判定となったのは、No.26の「生徒は適切な言葉遣いで会話ができている」かを問う項目であった。B判定とは言えA判定にもう一歩であり、昨年度までの数値と比較しても改善が見られる。これまでの取組を継続し、A判定とできるよう努力していただきたい。

また、A判定になっているものの、数値的にさらなる向上の余地がありそうな項目もある。例えば、No.17、No.25、No.30、No.34などの項目は、他の項目と比較してやや低い数値になっているので、特に取組の改善を重点的に行い、さらなる向上に努めていただきたい。

以上の点から、昨年度に引き続き、全体として良い方向、改善される方向で学校教育が進められているものと判断する。これまでの取組の成果を分析し、効果的だったと考えられる取組を継続し、改善できる点は改善を重ねてさらに充実した学校教育が展開されることを期待する。

一方、生徒に対するアンケートを見てみると、こちらも概ね良好な結果が出ている。B判定はNo.18の項目（毎日の家庭学習が定着しているか）だけで、数値的にみても改善が進んでいる項目が多い。全体的に生徒が落ち着いた学校生活を送っている様子がくみとれる。しかし、一方で多くの質問項目で、1や2を選んでいる生徒もあることから、生徒一人ひとりにより丁寧に対応・指導をしていく必要性を感じる。

2 話し合われたこと、意見等

◎ 全般的なことについて

- ◇ 学校の様子はだいぶ落ち着いているようだ。職員の評価にも生徒のアンケートからもそのことが伺える。生徒も先生方も頑張っていると感じる。そこで、評価が上がったのはなぜか、何に起因することなのかを明らかにして、今後につなげるようにしていくことが大切ではないか。
- ◇ 確かに数値が上がっていて非常に望ましいと感じる。しかし、これが、人事異動に伴ってのことであったり、逆に人事異動で下がっていくようであれば問題だ。そうならないために、改善の取組の何が良かったのかをしっかりとつかんで、さらにそれを定着させて、校風のようなものを築くことが大切だ。
- ◇ 職員の評価は全般的には良いが、中にはかなり低い数値をつけている人もいる。これらの職員に対するフォローや指導を管理職にはお願いしたい。
- ◇ （自分の）子供は、担任の先生のこと好きで、家でも良く話をしてくれる。親としては大変安心できる。相談をしても必ずしっかり応えてくれる。職員の評価はもう少し高く

もいい気がする。

- ◇ 何年か前はだいぶ落ち着かない時期があったようだ。今は、(自分の子供は) 学校が好きで楽しく通っている。将来は、御勅使中学校で学んだことを誇りにしてくれると思う。

◎ 学習活動について

- ◇ No.11に関わって、教科によっては進度に差があるようだ。(自分の子供が) 3年生ということもあり、受験に臨んでいるので、支障が出ないようにお願いしたい。
- ◇ 生徒アンケートのNo.18、家庭学習に関する項目について、毎年低い数値となっているようだが、もしかしたら、塾での学習を家庭学習としていないからではないか。今、塾へ通っている子供は非常に多い。我が家もそうだが、質問の文面からでは、もしかしたら純粋に家での勉強時間だけで考えているかもしれない。そういうことだとすれば、質問自体の表現を変えた方が良いかもしれない。今後に反映できると良い。
- ◇ 子供を見ていると兄弟でも差がある。これは、小学校からの習慣が大きく影響しているのではないか。やり方がわからないからできないという子供もいる。やり方を丁寧に指導する必要がある。それは小学校から行わなければならないと思うが、中学校でもできる指導をお願いしたい。

◎ 生徒指導について

- ◇ いじめはどの学校にもあるという認識が必要ということだが、本校ではどうなのか。子供からはあまりそのようなことは聞こえてこないが。
- ◇ 確かに今、学校は落ち着いていて、生徒たちは大変良くやっているが、残念ながら、いじめはある。先生方の努力もあり、早期発見と解決に向けての指導ができています。アンケートも年間5回実施するなどして丁寧な指導を心掛けているところだ。家庭との連携も密にして慎重で毅然とした対応をしていく。
- ◇ No.5、No.6について、他よりもやや数値が低いので気になっている。先生方に相談できない生徒がかなりいるということだから心配だが。
- ◇ 先生と生徒の距離が、私たちのころよりも近くなっているような気がする。そういう点からも先生方を頼りにしている。場合によっては、私より子供を理解していると感じるときがある。
- ◇ 当然、先生には話しにくいという面はある。仕方ない面もあるのではないか。そのような中でも、常に生徒に寄り添った指導を心掛けていくことが大切だ。また、No.12にも関わることだが、生徒が自分のことばで自分の考えや気持ちを話すことができるようにすることも大切だ。
- ◇ 最近スマホや携帯電話についての問題が多いようだ。スマホなどは、文字によるコミュニケーションだから、言葉で自分のことを表現するということと相反する面があるように思える。子どもたちは、どれくらいの所持率か。
- ◇ 3年生では、概ね8割の生徒が所持している。学年を追うごとに所持率が高くなっていくが、今年の1年生に関しては、すでに8割の所持率がある。社会全体の傾向だろう。本校でも、携帯電話に関係しておこるトラブルが年々増加している。人間関係を壊していった

り、人間不信に陥ったりすることもある。1学期からPTAとも連携して取組を行っており、生徒会でも宣言文を出したりしている。

- ◇ これは学校だけの問題ではなく、親としての対応が不可欠だ。親のあり方も考えなければならない。

◎ 学校の特色（挨拶、部活動、紅タイム）について

- ◇ 地域にいと、挨拶をしてくれるのが良くわかる。知らない人にもしてくれる。非常に良い。ただ、学年による差はあるように思う。
- ◇ 挨拶については、地域で生活していても良く挨拶してくれると感じている。顔を合わせなくても背中越しから挨拶をしてくれることもある。素晴らしい。人と人とのコミュニケーションはとても大切で、これができるれば多くの問題は無くなるのではないかと思うので、さらに一生懸命取り組んでほしい。このように良くなってきた裏には、どのような取組があったのか。また、今後はどのようにしていくのか。
- ◇ まずは職員自らが挨拶を励行する。また、生徒ができない時には、その場その場で指導するように心がけている。さらに重要なのは、生徒自身の手による取組で、生徒会が「あいさつ運動」を年間の重点取組として掲げ、積極的に行動している。例えば、登下校時に校門のところに本部役員と職員が出て、すべての生徒に向けて行うなどを行っている。成果をあげているので、今後も継続して取り組んでいく。
- ◇ とても自然な挨拶をしてくれる。小学校からの指導もあるのかもしれない。登下校時の学年を越えた声掛け運動が功を奏している。特に3年生が非常に頑張っている。挨拶に限らず、下級生の良い手本となっているのは、学校にとってとても重要なことである。

◎ まとめとして

- ◇ 学校がよい方向に向かっているのは、職員の結束力と、職員一人ひとりの経験を踏まえた力があってこそのことだと思う。だからこそ、職員の皆さんには力を高める努力を継続してもらいたい。また、管理職の先生方には、職員一人ひとりの力が十分に発揮できるような舵取りを期待する。今後もさらに良い方向へ学校が向かうことを期待している。

記載責任者

南アルプス市立白根御勅使中学校 学校関係者評価委員会委員長 ㊟